

トビウオ通信 (4月号)

<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成 13 年度上半期浮魚中長期漁海況予報》

平成 13 年 3 月に、東シナ海から日本海にかけての対馬暖流域における主要浮魚類（マアジ、マサバ、マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ）の長期漁況予報会議が開かれました。今月はこれをもとに、平成 13 年度前期（4 月～9 月）の中・長期的な漁況の予測をします。

マアジ海域によっては好漁も？！

大中小型まき網による東シナ海から日本海南西海域におけるマアジ漁獲量（図 1）は、昭和 55 年以降増加傾向にありましたが、平成 7 年に大きく減少しています。平成 8、9 年はやや持ち直したものの、その後は再び減少傾向にあります。平成 12 年 10 月～平成 12 年 2 月までの東シナ海を主漁場とする大中小型まき網の漁獲量（8,300 トン）は、前年同期（1

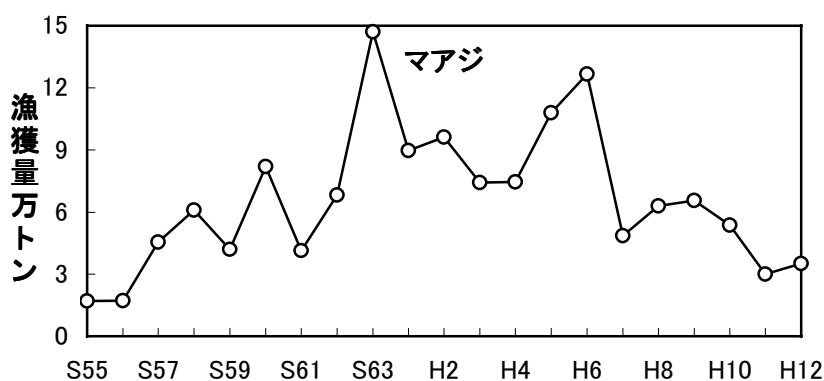


図1 大中小型まき網による東シナ海～日本海西部におけるマアジ漁獲量

万 2 千トン) をやや下回っています。漁獲物の銘柄は、ゼンゴ（1 歳魚）および小（2 歳魚）で全漁獲物の 8 割を占めており、マメ（0 歳魚）の割合は前年に比べ低く新規の加入量は少ないと予想されます。また、九州～山陰までの沿岸域における昨年秋以降の漁獲量は、長崎県～鹿児島県と、島根県西部で前年を上回り、その他の海域では下回りました。

春から夏にかけてのマアジ漁は、東シナ海での当歳魚の加入状況が良くないため、大豊漁は望めないものの、加入状況がよかった島根県西部海域では、不漁だった前年は上回ると考えています。

マサバは期待薄？！

島根県～青森県にかけてのマサバ漁獲量（図 2）は、平成 6 年以降、減少傾向にあります。平成 12 年は前年を上回ったものの依然として低水準にあるといえます。一方、対馬暖流系群の主分布域である東シナ海での大中小型まき網による平成 11 年

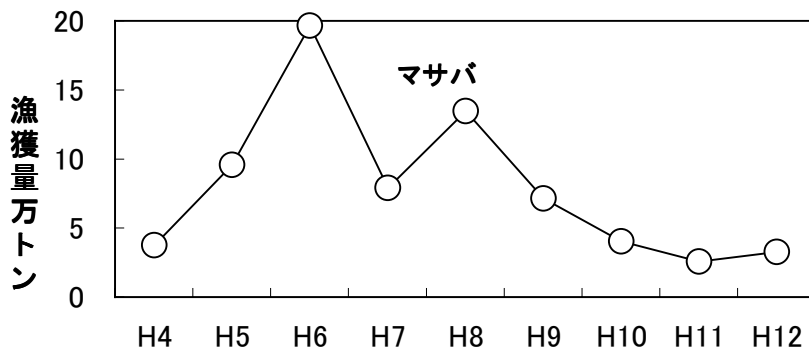


図 2 島根～青森までのマサバ漁獲量の変動

10 月～平成 12 年 2 月までのマサバ漁獲量は、1 万 5 千トンで不漁であった前年同期（4 万トン）を大

きく下回りました。マサバ資源は回復の材料が見当たらないため、今期の島根県沖での漁獲は前年、平年を下回ると考えています。

マイワシ資源依然低迷！

島根県～青森県までのマイワシ漁獲量(図3)は、平成5年以降減少傾向で、平成11年は前年に比べやや増加したものの、平成12年は再び減少しました。日本海に比べ漁獲量の多い太平洋海域でも平成12年は大きく減少しており、日本周辺海域全体でマイワシは不漁でした。マイワシ資源はしばらくは低水準状態が継続するものと思われる。

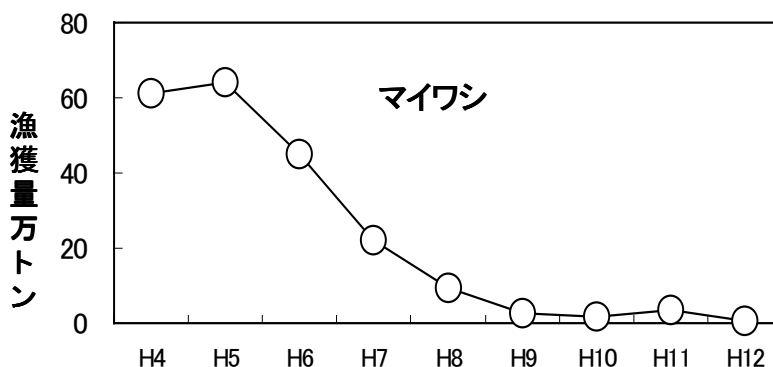


図3 島根～青森までのマイワシ漁獲量の変動

カタクチイワシ減少！

島根県から青森県までのカタクチイワシの漁獲量(図4)は近年増加傾向にあり、平成12年も5万2千トン余りの漁獲がありました。ところが、平成13年は、主漁期である1月～3月にかけてまったくの不漁となり、このままいけば平成13年の漁獲量は大きく減少するものと思われる。しかし、近年、カタクチイワシ資源は高水準が続いており、このまま減少傾向が続くとは考えにくく、平成9年に大きく減少し、翌年に回復したという事例もあることから、今後の動向に注目したいところです。

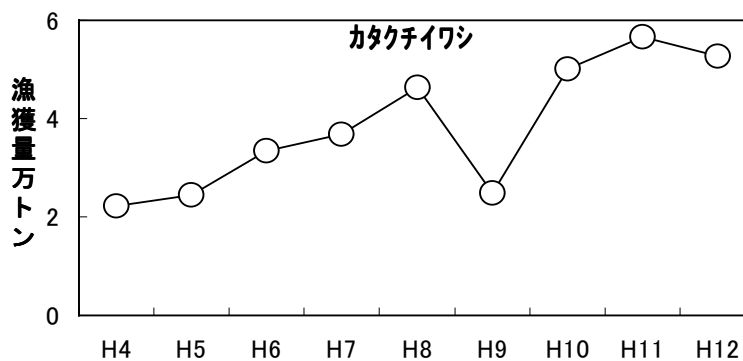


図4 島根～青森までのカタクチイワシ漁獲量の変動

ウルメイワシさらに減少！

島根県から青森県のウルメイワシの漁獲量(図5)は近年低水準にあります。対馬暖流域での主な漁場は、山陰～九州西岸域で、1999年の漁獲量は平年・前年を下回っており、資源は減少傾向で低水準にあります。今後の島根県沖での漁模様ですが、主漁期は夏から秋にかけてで、漁獲量は前年を下回ると考えています。

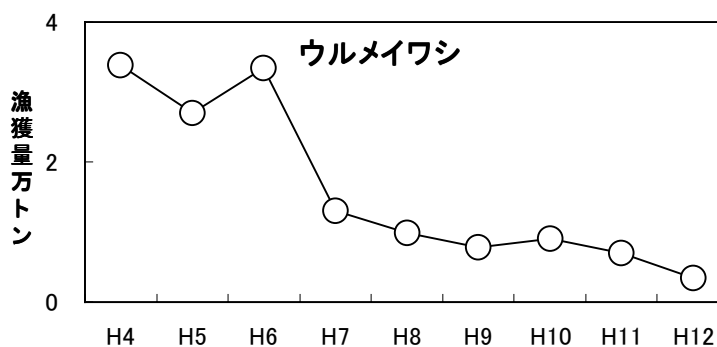
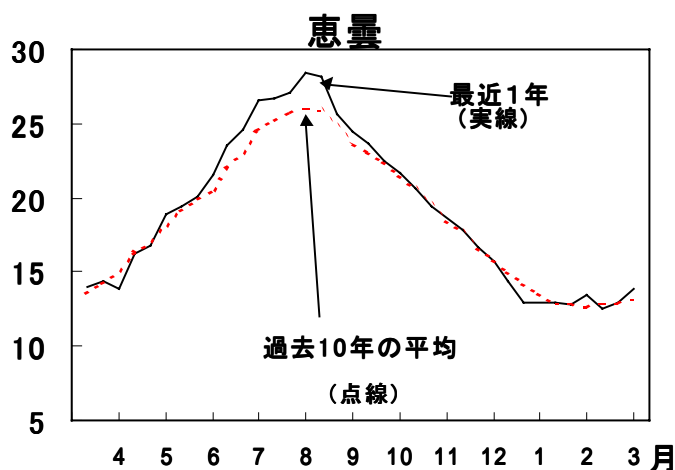
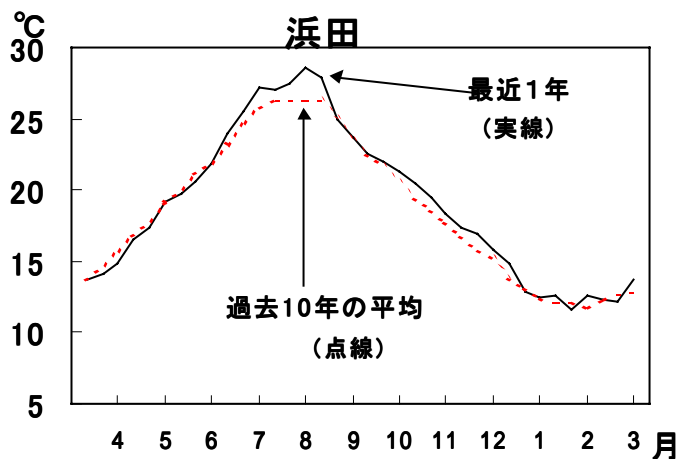


図5 島根～青森までのウルメイワシ漁獲量の変動

《 3月の海況 》

3月	月平均	平年差	評価
浜田	12.7	+0.1	平年並み
恵曇	13.1	+0.1	平年並み

3月の月平均水温は2月に比べ浜田で0.4 上昇、恵曇では変化ありませんでした。浜田、恵曇とも「平年並み」、の水温経過となっています。



4月上旬の海洋観測結果によると山陰沿岸域は島根県沿岸部から隠岐諸島にかけて、表層から底層(100m)まで12以上の暖かな水塊に覆われています。表層から底層まで浜田沖北方120マイルには冷水域が形成されています。中(50m)・底層ではこの他に浜田の北方70マイル、隠岐諸島の北方50マイルにも冷水域が見られます。一方で暖水域が隠岐諸島周辺および隠岐諸島の北北東約60マイルの表層に形成されています。このように4月の山陰沿岸域は複数の冷水域と暖水域が混在した非常に複雑な水塊配置となっています。

山陰海域の表層から底層まで冷水域周辺で「平年並み～甚だ低め」のほかは、広い範囲で「やや高め～甚だ高め」でした。

《 3月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量はマアジ主体に429トン、総水揚金額は4,227万円でした。1統当りの漁獲量は107トンで、前年の17%、平年の11%と極めて低調でした。水揚金額は1,057万円で前月をやや上回ったものの、前年の25%となりました。恵曇では、マアジ主体に総漁獲量57トン、総水揚金額は907万円でした。1統当りの漁獲量は8トン(前年比:4%)、水揚金額は302万円(前年比:64%)でした。浦郷ではマアジ主体に総漁獲量122トン、総水揚金額は1,471万円でした。1統当りの漁獲量は24トン(前年比:5%)、水揚金額は294万円(前年比:16%)となりました。前月に引き続き、前年豊漁であったカタクチイワシの減少、マサバの不漁が不振の原因となっています。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、スルメイカを中心に78トンで、前年をやや下回りました。一方、西郷のイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、スルメイカを中心に5.8トンで、こちらは前年を大きく下回りました。浜田に水揚げされたスルメイカの魚体は20～25入りが主体となっています。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は361トン、総水揚げ金額は1億6,512万円、1統当たり漁獲量は60.1トン(前年比96%、平年比112%)、水揚げ金額は2,752万円(前年比99%、平年比119%)でした。漁獲の中心

はケンサキイカ（前年比 166%）とスルメイカ（前年比 101%）でした。

恵曇港の総漁獲量は 176 トン、総水揚げ金額は 1 億 368 万円、1 統当たり漁獲量は 44.0 トン（前年比 129%、平年比 106%）、水揚げ金額は 2,592 万円（前年比 153%、平年比 98%）でした。漁獲の中心はアカガレイ（前年比 181%）でした。

【小型底びき網漁業】

和江・大田市漁協とも、昨年豊漁だったソウハチの漁獲が低調に推移したため、漁獲量・金額ともに前年を大幅に下回りました。

両漁協ともソウハチの漁獲割合は高いものの、1 日 1 隻当たりの漁獲量は前年の 4 割程度に留まっています。近年は春季にまとまった漁（3 月～5 月）がありましたが、今期は、今のところ低調に推移しています。一方、好調に推移した魚種はアンコウ、ニギス、ヤナギムシガレイなどですが、和江漁協では、ハタハタが前年の 2.3 倍の水揚げとなっています。

【定量網漁業】

隠岐地区は昨年と同様な漁模様となり、スルメイカが急増し全漁獲量の 90% 以上を占め、漁獲量は平年の約 2 倍と好調でした。その他の地区では前月をやや上回ったものの、漁獲量は平年の 60% 前後と低調に推移しました。県下全域でイカ類（スルメイカ・ヤリイカ）が漁の主体となっていますが、各地区とも水揚げ金額は前年の 50～60% と大幅に下回りました。

【釣・縄】

時化の影響で出漁日数が大幅に減少し、漁獲量は前年の約 90%、水揚げ金額は前年の 85% とやや低調に推移しました。各海域ともブリが主体となっていますが、その他の魚種については、県東部ではスズキ、ヤリイカ、県西部ではヤリイカ、マダイ、隠岐地区ではカサゴ類、メダイなどでまとまった量が見られました。

漁獲統計

平成 13 年 3 月 1 日～31 日

漁業種類	水揚げ港	延隻数・統数	主要魚種	1 隻(統)1 航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	33	マアジ	13.0 トン	429 トン
	恵曇	15	マアジ	3.8 トン	57 トン
	浦郷	22	マアジ	5.6 トン	122 トン
イカ釣り (5 トン以上)	浜田	228	スルメイカ	342Kg	78 トン
	西郷	19	スルメイカ	305Kg	5.8 トン
沖合底びき網	浜田	37	ケンサキイカ・スルメイカ	9.8 トン	361 トン
	恵曇	37	アカガレイ	4.8 トン	176 トン
小型底びき網	和江	398	ソウハチ・アンコウ	576Kg	229 トン
	大田市	242	ニギス・ソウハチ	536Kg	130 トン
定量網	浜田	25	ヤリイカ・マアジ・ブリ	212kg	5.3 トン
	恵曇	19	ヤリイカ・スルメイカ	126kg	2.4 トン
	浦郷	17	スルメイカ・ヤリイカ	6,382kg	108.5 トン
釣・縄	浜田	259	ブリ・ヤリイカ・マダイ	78.4kg	20.3 トン
	五十猛	70	ブリ・カサゴ類	61.4kg	4.3 トン

1 隻(統)1 航海当漁獲量は総漁獲量 / 延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。